

平成 20 年度事業報告書

I 概況

再生資源市場のこの 1 年間は、高騰と暴落に翻弄された歴史的な大激変を経験した年でした。とりわけ 10 月以降には、集団回収事業者の回収コスト割れや問屋の在庫調整問題等が業界全体に重くのしかかってきました。

他方、リサイクルの秩序を乱す資源抜き取り行為に対しては、最高裁で有罪判決が確定。抜き取りを許さない社会づくりに新たな一歩を踏み出した年でもありました。当協会では抜き取り対応調査をしました。行政は関心が高いのに対して、取り締まる側の警察は、地域によって温度差があることが判明し、当業界が率先して社会的関心を高める必要性を感じました。

20 年度から「地域懇談会」を新たにスタートしました。地元単協と行政の協力を得ながら、地域事情に即したリサイクルシステムのあり方を学ぶことができ、行政と業界の双方に大変参考になったといえます。経済の先行き不透明な困難な状況だからこそ、当協会の果たす役割は益々大きくなります。

平成 21 年 2 月には、役員増員等の定款変更の認可を受けました。3 月には役員改選を実施。平成 21 年度以降の新体制のもと協会活動の一層の拡充を図ってまいります。

II 個別事業

1 再生資源リサイクルに関する調査研究及び情報交換事業

都民・行政・リサイクル関連業界及び当協会会員向けに次の調査研究活動を行った。

(1) 再生資源抜き取り行為への対応

① 「再生資源抜き取り行為に関する調査」の実施

都内区市町（52 区市町）と資源回収団体（29 団体）を対象に、抜き取り行為の実態と対応状況を把握するためのアンケート調査を平成 20 年 11 月に実施。12 月に集計結果としてとりまとめ、12 月 4 日の「再生資源抜き取り防止促進フォーラム」において発表した。

② 警察への協力要請

抜き取り行為は行政回収ばかりでなく集団回収への被害も顕著となってきた。警視庁に対して集団回収への理解と取り締まり強化の協力要請を行った。

(2) 小規模事業所における古紙リサイクルシステム（東商エコリーグ）の調査

〈東京商工会議所受託事業〉

平成 7 年度より東京商工会議所と協力し、小規模事業所向けのリサイクル事業を展開している。現在 12 区で実施。平成 20 年 6 月には平成 19 年度の実施状況と実績を明らかにした。

(3) リサイクル事情視察会の開催

① 国内視察会（熊本・水俣）の実施＜平成 20 年 9 月 24～25 日（1泊2日）＞

西原商店(株)（熊本市）の協力のもと、同社関連会社である(株)熊本市リサイクル事業センターで古紙を日量 70 トン選別処理するラインや、医療系廃棄物の保管ヤード、同社新港事業所の最新の PET ボトルの選別・加工ヤードを見学した。

また環境都市として知られる水俣市では、22 分別の資源ごみ分別ステーションの排出現場に

において市民世話人からのヒアリングの他・水俣市環境クリーンセンターのストックヤード・水俣エコタウン[田中商店水俣営業所（びん商）・リプラ・テック（廃プラ加工処理）]を見学した。統一リユースびんの普及活動や廃びんをコップなどに加工して販売する「リグラス」など多数の興味深い取り組みを見聞した。（参加者 18 名）。

②海外視察会（大連・北京）の実施＜平成 21 年 3 月 19～22 日（3 泊 4 日）＞

（株）松本光春商店（高松市）の協力を得て、大連・北京の古紙ヤードを見学した。同社は同国において初めてペーラーマシンを導入。中国の古紙流通の効率化に貢献している。中国展開の経緯や、今般の経済危機時における流通事情についてヒアリングを行なった。また再生資源市場（北京通州区）を訪問。さまざまな資源物が集ってくる寄せ屋の実態や価格動向の把握等を行なった。（参加者 15 名）

(4)行政機関等への情報提供

①再生資源市況動向の調査と説明書のとりまとめ

10 月頃から暴落した再生資源の動向について、事業対策委員会で情報収集ととりまとめを行い、会員団体が取引先に提出する説明資料を作成した。この概要を広報誌第 14 号（平成 21 年 1 月発行）に掲載した。

②都内古紙流通量の推定

行政機関からの要請により、調査研究委員長が都内における古紙流通実態や推定方法について説明を行った。

(5)紙製容器包装の識別マークの問題点の検討

紙製容器包装の識別マークは、再利用できない素材が 50%近く含まれている場合でも「紙マーク」がつけられ、効率的なリサイクルの阻害要因となっている。平成 19 年度は問題の整理と検討の方向性について中間のまとめをした。当年度は専門家を交えた検討会のフレームづくりと関係機関への協力要請を行った。

2 再生資源リサイクルに関する研修事業

都内各地のリサイクルシステムやリサイクルの現状についての情報と意見交換の場を提供する「地域懇談会」を会員及び個別事業者、行政機関等を対象に 6 回開催した。

開催地域は、八王子市、世田谷区、墨田区、豊島区、青梅市、中野区で、各回とも地元行政担当者に話題提供いただき、活発な意見交換を行った。

3 再生資源事業を行う者に対する相談指導事業

都内におけるリサイクルの全体状況等を把握し、業界関係者への相談・指導に役立てるために、「地区懇談会」として東京都環境局との情報連絡会を 1 回、東京二十三区清掃一部事務組合・東京市町村自治調査会・東京都地球温暖化防止活動推進センターから講師を招き 3 回実施した。この他、情報交換会を毎月 1 回開催した。

4 再生資源リサイクルを円滑に行うための普及・啓発事業

(1)リサイクルフォーラムの開催

平成 20 年 7 月、世田谷区における資源持ち去り行為の有罪が最高裁で確定した。これを受け、12 月 4 日に「抜き取り防止促進フォーラム」をホテルラングウッド（荒川区）で開催した。世田谷区の基調講演に続き、市民団体・行政・法曹・回収業者・古紙問屋によるパネルディスカッション（「検証：抜き取り行為を許さない地域社会をめざして」）を行った。参加者は 160 名を超え、白熱した議論が展開された。業界が行政や市民を巻き込んで、よりいっそう社会的関心を高める必要があることを確認した。

(2)職場体験学習等の実施（東多摩再資源化事業協同組合との協働）

平成 20 年 11 月 24 日、「東村山市子どもエコ探検隊」（14 名）の受け入れ、古紙リサイクルの現状とリサイクル施設の説明を行なった。

平成 21 年 2 月 4～6 日には、東村山市立第二中学校の生徒 6 名の職場体験学習を実施。生徒が回収車両に同乗しての回収作業体験、協力問屋の各ヤードにおいて古紙の選分作業体験をした他、同組合や当協会の担当者が講習を実施した。

(3)江東区環境フェア・エコプロダクツ 2008 への出展

平成 20 年 7 月 13 日、えこっくる江東（江東区潮見）において開催された江東区環境フェアに協賛会員の有明興業㈱の協力を得て出展。当協会の活動を PR した。

（財）古紙再生促進センターの協力を得て「第 10 回エコプロダクツ 2008」（平成 20 年 12 月 11～13 日・東京ビッグサイト（東展示場））に出展した。日本最大級の環境展示会ということで、当協会の PR に役立てた。

(4)東京都環境局環境学習施設（廃棄物埋立管理事務所内）施設展示の協力

東京都環境局からの依頼を受けて、平成 21 年よりリニューアルされる環境学習施設（中央防波堤合同庁舎内 1 階）へのリサイクル展示物の提供協力をした。

5 機関誌の発行事業

(1)広報紙の発行

平成 17 年 12 月の創刊号の発行以来、会員はもとより行政など関係各機関に送付、配布依頼をしている。平成 20 年度は第 10 号～14 号を各 7,000 部発行した。主な記事内容は「再生紙偽装問題の緊急提言」「魚さいのリサイクル」「生ごみ処理特集」（以上第 10 号）「紙製容器包装マークの検討委員会の中間まとめ」「古繊維リサイクルの現状」「台湾のリサイクル事情」（以上第 11・12 合併号）、「世田谷区の抜き取り条例違反有罪確定」「レンタル P 箱の回収協力 PR」（以上第 13 号）、「平成 20 年リサイクル業界 10 大ニュース」「再生資源抜き取り防止促進フォーラム報告」「激変する再生資源市況について」（以上第 14 号）。

また協会概要説明用のリーフレット（A4 判 3 つ折）を 7,000 部発行し、協会 PR に努めた。

(2)ホームページの更新

ウェブサイトに協会ホームページを運営している。協会の概要や会員紹介、リサイクルの問い合わせ先や東商エコリーグ等を紹介。本年は正会員専用サイトを設置、協会情報の提供等を行なっている。

以上

決算報告書

第 3 期

自) 平成 20年 4月 1日

至) 平成 21年 3月 31日

<決算書類及び財産目録>

収支計算書	1
正味財産計算書	4
貸借対照表	5
計算書類に対する注記	6
財産目録	7

社団法人 東京都リサイクル事業協会

平成20年度収支計算書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

勘定科目		決算額			備考(千円)			
		大	中	小科目		予算額	決算額	差異
1				入会金収入	0	0	0	
	1			入会金収入	0	0	0	
2				会費収入	17,434,000	19,492,578	2,058,578	
	1			正会員会費収入	5,467,000	5,815,000	348,000	広域(8):@360×7、@120×1 地域(22):@100×1、@120×12、@135×1、@150×3、@180×2、@210×1、@240×2
	2			協賛会員会費収入	3,120,000	3,200,000	80,000	@120×26、@80×1
	3			賛助会員会費収入	360,000	480,000	120,000	@40×12
	4			一般賛助会員会費収入	950,000	1,300,000	350,000	@50×25(団体50加算)
	5			特別会費収入	7,537,000	8,697,578	1,160,578	
	-1			調査研究関連	2,719,000	3,494,150	775,150	熊本・水俣視察会、大連・北京視察会会費
	-2			研修関連	1,970,000	2,320,278	350,278	地域懇談会6回、地区懇談会3回、情報連絡会等
	-3			普及啓発関連	2,848,000	2,733,000	△ 115,000	抜き取りフォーラム・広報誌会費
	-4			その他	0	150,150	150,150	会議室支援
3				事業収入	300,000	300,000	0	
	1			再生資源リサイクルに関する調査研究及び情報交換事業	300,000	300,000	0	
4				寄附金	0	0	0	
	1			寄附金	0	0	0	
6				補助金等収入	0	0	0	
	1			東京都補助金収入	0	0	0	
7				雑収入	2,000	8,809	6,809	
	1			受取利息	2,000	8,809	6,809	
	2			雑収入	0	0	0	
当期収入合計 (A)					17,736,000	19,801,387	2,065,387	
前期繰越収支差額 (B)					3,012,000	3,012,567	567	
収入合計 (C)					20,748,000	22,813,954	2,065,954	

Ⅱ 支出の部

勘定科目		決算額			備考	
大	中	小科目	予算額	決算額		差異
1	事業費		10,832,000	11,570,327	738,327	
	1	事業に係る人件費	3,666,000	3,516,400	△ 149,600	事務局雑給含む
	2	再生資源リサイクルに関する調査研究及び情報交換事業	2,983,000	3,538,435	555,435	大連北京視察会(2280)熊本水俣
		1 報酬	0	0	0	
		2 会議費	30,000	22,151	△ 7,849	東商幹部との会合(17)古紙マーク検討室料等
		3 通信運搬費	30,000	9,390	△ 20,610	抜き取りアンケート郵送
		4 印刷製本費	30,000	34,201	4,201	市況暴落会議コピー代・抜き取りアンケート等
		5 研究開発費	2,693,000	3,466,078	773,078	
		6 雑費	200,000	6,615	△ 193,385	民カデータ図書
	3	再生資源に関する研修事業	1,375,000	1,124,142	△ 250,858	
		1 会議費	1,250,000	1,107,771	△ 142,229	
		2 消耗品費	30,000	0	△ 30,000	
		3 旅費交通費	50,000	0	△ 50,000	
		4 印刷製本費	15,000	16,371		
		5 雑費	30,000	0	△ 30,000	
	4	再生資源事業を行う者に対する相談指導事業	870,000	1,123,244	253,244	
		1 会議費	740,000	1,117,787	377,787	
		2 通信運搬費	30,000	0		
		3 印刷製本費	70,000	5,457		
		4 雑費	30,000	0	△ 30,000	
	5	再生資源リサイクルを円滑に行うための普及事業	1,028,000	1,197,286	169,286	
		1 会議費	838,000	864,542	26,542	リサイクルフォーラム会場費、警備費(26)
		2 印刷製本費	100,000	54,569	△ 45,431	
		3 新聞図書費	0	0	0	
		4 通信運搬費	30,000	12,620	△ 17,380	フォーラム資料運搬・チケット郵送、エコプロ出展物配送等
		5 雑費	60,000	265,555	205,555	関連団体シンポ協賛(140)フォーラム講師報酬(55)HP改訂外注(70)
	6	機関誌の発行事業	910,000	1,070,820	160,820	
		1 印刷製本費	700,000	913,815	213,815	広報誌10～14号 リフレット(120)
		2 通信運搬費	200,000	152,805		
		3 雑費	10,000	4,200	△ 5,800	広報委員会室料
	7	顕彰及び表彰に関する事業	0	0	0	
		1 会議費	0	0	0	
		2 通信運搬費	0	0	0	
		3 物品費	0	0	0	
	8	その他法人の目的を達成するために必要な事業	0	0	0	
		1 会場費	0	0	0	
		2 印刷費	0	0	0	
		3 通信運搬費	0	0	0	
		4 雑費	0	0	0	

勘定科目			決算額			備考
大	中	小科目	予算額	決算額	差異	
2	管	理 費	6,790,000	6,152,862	△ 637,138	
	1	役員報酬	1,541,000	1,541,400	400	
	2	給料手当	2,000,000	2,000,000	0	事務局雑給含む
	3	福利厚生費	0	0	0	
	4	会議費	120,000	187,133	67,133	総会・理事会等室代・お茶代・打合せ
	5	旅費交通費	200,000	100,830	△ 99,170	
	6	通信運搬費	343,000	339,549	△ 3,451	
	7	荷造発送費	159,000	116,788	△ 42,212	郵券、総会・理事会等発送
	8	新聞図書費	53,000	52,596	△ 404	日経新聞
	9	消耗品費	300,000	66,079	△ 233,921	文具・事務用品、PCハードディスク(12)
	10	修繕費	24,000	24,000	0	パソコンデータ復旧
	11	印刷製本費	523,000	436,553	△ 86,447	コピー、用紙、封筒印刷等
	12	光熱水費	105,000	96,126	△ 8,874	
	13	地代家賃	882,000	882,000	0	
	14	租税公課	71,000	71,000	0	
	15	支払手数料	36,000	25,808	△ 10,192	
	16	諸会費	15,000	15,000	0	東京商工会議所年会費
	17	交際費	50,000	30,000	△ 20,000	顧問弔事、明日を語る会
	18	税理士報酬	168,000	168,000	0	
	19	雑費	200,000	0	△ 200,000	
勘定科目			決算額			
大	中	小科目	予算額	決算額	差異	
3		固定資産取得支出	0	0	0	
	1	計器備品購入支出	0	0	0	
4		特定預金支出	0	0	0	
	1	事業運営資金積立金	0	0	0	
5		雑損失	0	120,000	120,000	
	1	雑損失	0	120,000	120,000	
6		予備費	114,000	0	△ 114,000	
	1	予備費	114,000	0	△ 114,000	
当期支出合計 (D)			17,736,000	17,843,189	107,189	
当期収支差額(A)-(D)			0	1,958,198	1,958,198	
次期繰越収支差額(C)-(D)			3,012,000	4,970,765	1,958,765	

正 味 財 産 計 算 書

平成21年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額		
I 増加の部			
1、資産増加額			
当期収支差額	1,958,198		
	0		
2、負債減少額	0		
増加額合計		1,958,198	
II 減少の部			
1、資産減少額			
当期収支差額	0		
固定資産除却損	14,962		ノートパソコン
2、負債増加額	0		
減少額合計		14,962	
当期正味財産増加額		1,943,236	
前期繰越正味財産額		3,027,529	
期末正味財産合計額		4,970,765	

貸借対照表

平成21年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	82,838	
普通預金	2,358,208	
定期預金	1,809,749	
未収入金	1,300,000	
流動資産合計		5,550,795
2 固定資産		
什器備品		
工具器具備品	0	
固定資産合計		0
資産合計		5,550,795
II 負債の部		
1 流動負債		
未払い金	518,960	
前受金	20,000	
預り金	41,070	
仮受金	0	
流動負債合計		580,030
2 固定負債		
固定負債合計	0	0
負債合計		580,030
III 正味財産の部		
正味財産額		4,970,765
(内当期正味財産増加額)		1,943,236
負債及び正味財産合計額		5,550,795

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収入金、前払金、未払い金、前受金および預り金を含めることにしている。

なお、前期末及び当期末残高は2に記載のとおりである。

2. 次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	2,681,478	4,250,795
未収入金	780,000	1,300,000
前払金	0	0
合計	3,461,478	5,550,795
未払金	0	518,960
前受金	160,000	20,000
仮受金	185,000	0
預り金	103,911	41,070
合計	448,911	580,030
次期繰越収支差額	3,012,567	4,970,765
固定資産	14,962	0
正味財産	3,027,529	4,970,765

3. 固定資産の取得価格、固定資産除却額および当期末残高は次のとおりである。

科目	取得価格	固定資産除却額	当期末残高
什器備品 (ノートパソコン)	14,962	14,962	0

財 産 目 録

平成21年3月31日現在

(単位:円)

科 目		金 額	
I	資産の部		
1	流動資産		
	現金預金		
	現金	現金手許有高	82,838
	普通預金	三菱東京UFJ銀行上野中央支店	2,358,208
	定期預金	三菱東京UFJ銀行上野中央支店	1,809,749
	未収入金		4,250,795
	会費		1,000,000
	事業費(東商エコリーグ分)		300,000
	流動資産合計		5,550,795
資産	什器備品		
	工具器具備品		0
	固定資産合計		0
	資産合計		5,550,795
II	負債の部		
1	流動負債		
	未払い金		518,960
	前受金		20,000
	仮受金		0
	預り金	源泉所得税	41,070
	流動負債合計		580,030
2	固定負債		
	固定負債合計		0
	負債合計		580,030
	正味財産		1,943,236
			3,607,559